

松嶋夜話 卷之下 42

〔原文〕一日把拇尾明慧上人傳記曰

〔訓読〕一日、拇尾の明慧上人の傳記を把る、曰く

※明恵：鎌倉時代前期の華嚴宗の僧。法諱は高弁。明恵上人・拇尾上人とも呼ばれる。父は平重国。母は湯浅宗重の四女。現在の和歌山県有田川町出身。華嚴宗中興の祖と称される。

〔原文〕上人或日赴檀家

〔訓読〕上人或る日、檀家に赴く

〔原文〕主以松蕈供之

〔訓読〕主松蕈を以て之に供す

〔原文〕且白上人因嗜好享之

〔訓読〕且つ白す、上人、嗜好に因りて之を享す

〔原文〕上人不對

〔訓読〕上人對へず

〔原文〕歸山召諸子曰

〔訓読〕山に歸して諸子を召して曰はく

〔原文〕有道人嗜法味爲偏執

〔訓読〕有道人、法味を嗜むすら、偏執を爲す

〔原文〕矧於此五味之物乎

〔訓読〕矧や、此の五味の物に於いておや

〔原文〕雖曰滅後不可此物庇供

〔訓読〕滅後と曰ふと雖も、此の物供に庇(そな)へるべからず

〔原文〕我之愧也

〔訓読〕我が愧じなりと

〔原文〕余讀之感格不止

〔訓読〕余之を讀みて、感格止まらず

〔原文〕親自慚平素也

〔訓読〕親自（みずから）、平素を慚ず

〔原文〕仍謝上人口澤

〔訓読〕仍て上人の口澤を謝して

〔原文〕抄出其傳記三写内一十餘款

〔訓読〕其の傳記、三写内の一十餘款を抄出す

〔原文〕系以爲二冊

〔訓読〕系げて以て二冊と爲す

〔原文〕昔日爲先中將太守具于劉覽

〔訓読〕昔日、先の中將太守の爲に、劉覽に具ふ

〔原文〕又另爲而寘巾箱中

〔訓読〕又別に寫して巾箱の中に寘（お）く

〔原文〕異日等二三子攤之者云耳

〔訓読〕異日、二三子の之を攤する者を等ちて云うのみ